

東日本大震災からの復興と教育方法

【設定趣旨】

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波、その後の余震、そして原子炉の破損と水素爆発による放射能漏れとその拡大は日本に巨大な複合的被害をもたらした。現在もなおその被害は進行中であり、厳寒の避難生活、放射能汚染地域からの強制退去、生活と地域の復旧と復興、放射能汚染土の除去と衣食住の生活の安全など、事態は深刻であり、日本の安全と危機管理体制が問われている。

東日本大震災による天災・人災の巨大複合災害は、多くの子どもや青年、教育関係者が犠牲になり、生き残った者も生命と生活の安全と安心が脅かされている。今回の大震災の現状を前にして、教育方法学は、防災教育、安全教育、健康教育、地域教育などを通して、子どもたちの生命の安全と安心を確実にし、カリキュラム開発、教科の指導、教科外の指導、生活指導を通して、子どもたちに希望と展望を与えることを求められている。

今回の研究集会では、原子力や防災教育の専門分野からの基調提案を頂き、その上で、地震、津波、原発に関する教育のあり方、復興に取り組む教育方法のあり方について検討を行いたい。

日 時：2012年3月31日（土曜日）

12:00 受付 開会 12:50 閉会 17:45

場 所：東北大学教育学部（詳細な会場は未定）

テーマ：東日本大震災からの復興と教育方法

全体進行：梅原利夫（和光大学）

的場正美（名古屋大学）

プログラム：

基調提案「地震、津波、原発はどのように教えられるべきか」

1 小林昭三（新潟大学）「原発はどのように教えられるべきか」

2 佐藤 健（東北大学）「これからの防災教育」

シンポジウム「復興に取り組む教育方法」

司会者：臼井嘉一（国士舘大学）

小泉祥一（東北大学）

提案1：佐藤幸也（宮城学院女子大学） 「復興に取り組む地域・学校の現状」

提案2：遠藤定治（岩手県女川町教育長）「津波被災の現場から」

提案3：増子啓信（福島県相馬市小学校）「原発被災の現場から」